

くさしぎ便り No.22

プラットフォームだより

くさしぎ・草の根市議と市政を考える会 2020年4月発行 e-mail kusasigi@nifty.com
ホームページは「辻よし子と歩む会」で検索してください。

前回の「プラットフォーム」(2019.8.25)で、子どもが不登校になり、学校とさまざまなやり取りをせざるを得なくなった方の発言がありました。今回はその方の体験をまずお聞きして、皆で話し合いました。学校は身近な存在ですが、外部からは良く見えない存在でもあります。改めて、「学校って、何だろう?」

第9回 市民のプラットフォーム

2020年2月2日(日)13時半~16時

あきる野ルピア



うまく学校と
話せるかな?



聞こう 話そう 学校の悩み

学校は本当に 子どものため にあるの?



Aさん

息子は、中学2年の秋から不登校になりました。友達にからかわれたことが原因でした。息子の通っていた中学では、生徒の1割が不登校でしたが、先生方は、不登校生が出て当たり前、「学校の問題というより家庭の問題」と考えていらっしゃるような感じでした。とにかく先生方も学校も忙しく、ゆっくと生徒と関わる余裕をなくしているように思います。

中学では、教科ごとに先生が代わり多くの先

生方が生徒を見てくれているはずなのに、もしその生徒が学校でトラブルをかかえたとしても、対応はすべて担任に任せられ、他の先生方は解決に関わろうとはされず、もどかしく感じました。

また、担任の先生が厳しいと、その反動で、クラス内でいじめが起きるということもあるのではないのでしょうか。

息子の場合、スクールソーシャルワーカー、スクールカウンセラー、養護の先生、教育相談所、さまざまな方に相談をお願いしました。

幸い、2・3年の時の担任は、息子に寄り添って指導をしてくださり、体調の良い時は、息子も週に何度か学校に、午前中だけですが通うことができました。

学校がより良くなるには？

そうした私の経験から、学校がもっと良くなるにはどうしたらいいか、いくつか感じていることがありますので、お話ししたいと思います。まず、不登校生を救うには、強い校長先生の意識がないと無理だと思えます。「不登校生がいるのは当たり前」とその存在に慣れてしまわないようにお願いしたいです。その上で、

- ① 「小中一貫教育」が動き出しているの、その利点を生かし、成績だけでなく、生徒一人一人の性格も小学校から中学校で共有する。
- ② 先生たちがもっと生徒と関われるようなゆとりを何としても確保する。
- ③ 開かれた学校にする。地域の人たちが関わるとか様々な方法で試みてほしい。あまりに学校から情報が出てこないと、何かを隠しているのではないかと不安になる。
- ④ もっと先生方同士が話し合う。
「学級王国」という言葉があるが、先生同士がクラスを越えて、生徒のことやクラス運営について意見を交わしていないように感じる。担任に任せきりではなく、学校全体で支えあうようにしていただきたい。

以上が、特に感じていることです。

どの子にとっても学校が安心できる場であり、それぞれの能力をのばしてくれる場であってほしいと願っています。

—後日、Aさんからご連絡がありました！—



息子はその後、担任、養護教諭、カウンセラー、ソーシャルワーカー、教育相談、通級学級の教諭の方々が、親身に向き合ってくださいのおかげで、無事高校に進学をすることができました。

(おめでとうございます！ 編集部)

みんなで 話そう！



◆学校ではもう長く、自由に意見を交わすということがなくなった。かつては職員会議でそうしたことが話し合われたが、今時は校長の指示を下す場になっている。

◆保護者会で自分の考えを話してみるというのはどうだろうか？

◆子どもの権利条約に基づき、子どもの人権を守るために「子どもオンブズパーソン」を制度化している自治体がある。(兵庫県川西市) 川崎市や日野市も人権を守るオンブズマン制度がある。

◆保護者が、心ある教員の味方になることで、その仕事を支えることができる。

◆PTAとして学校に関わることで、学校の事情も見えてくるし、風通しを良くすることもできると思う。

◆子どもが SNS 上にアップした記事が学校で問題となった。本人はうれしくてアップしただけで、当事者同士で話せば済むことだったと思う。

◆「みんなの学校」という映画になった大阪市の大空小学校は、校則がない、発達障害児や不登校児も一緒に学んでいるなど、型破り。それを公立学校で実現していることは素晴らしいと思う。

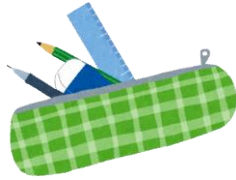
◆子どもの小学校では、給食の食べ残しが多いということで、「もぐもぐタイム」とネーミングして、最初の10分ほどはお話をせず給食を食べることに集中しようということがルールになっていて、びっくりした。

◆小学生の娘が授業放棄をしたことがあり、直接先生に電話した。後日、学年主任、副校長、校長も交えて話し合う機会があつて、担任もどうすればよいかが見えたようだった。若い先生に対して

は、保護者も含めてその成長を見守るということも大切。

◆障害児を学級で受け入れることは、とても大きな教育力を発揮する。保護者会でそうした考えを持つ親たちが受け入れを提案できるといいな。

アンケートに 寄せられた声



●Aさんのお話を聞いて、当事者でないといけない「重さ」に、自分の中学生時代を思い出しました。大人だと、ある程度客観的に見られることでも、子どもたちにとっては本当に「八方ふさがり」なんですよ。 「不登校も選択」とは、当事者はほとんど思えない。やはり、苦しみ・悩みの原因を理解し、共に解決してくれる大人、同級生、周りの人たちが必要だと思います。

●途中からだだったので、最初話が読めないところがありました（遅れてしまって申し訳ありません）、色々な人のお話を聞いて良かったです。私はなんの問題もなく大学まで来てしまったので、不登校の話聞いても実感がわかないところがありました、もしかして、こういう思いをしていた人がいたのかと、小中学校の頃を思い出していました。

私はSWを目指しているので、SSWがオンブズパーソンと違って、子どもの秘密を守らないという話を聞いて少し悲しくなりました。支援に必要な情報以外も話しているのかな……と。

SNSでの学校の対応が、子どもの一生消えない記憶になると思います。もう、絶対、ふざけることはないでしょう。

●情報交換の場として勉強になります。個人個人での体験を共有したり、意見を話し合うのは、すぐに答えを出せなくても土台になると思います。

●Aさんの「保護者は孤立するので悩みを話せる

場所やアドバイスをもらえる場所、保護者同士で悩みを話し合える場所がほしい」という痛切な思いを、何らかの形で実現できるといいなあと思います。

まずは現状把握して、他の良い例も共有して、ステップ by ステップでいけるといいですね。運営、お疲れ様です。また、不登校など悩みを抱える保護者の方の生の声をきけて、みなさんの納得のいく”学校“になるといいなあと思います。

●「この会議で何を指すのか」という問いに考えさせられました。事例はたくさんあって、それを出し、聞き合う場として意味はあるかもしれないが、「どうにかせねば」という気持ちのある方ばかりで、何か行動に移すことは出来ないのかと思う。

国、社会の問題という側面もあるが、「まずは、あきる野市から変えよう」とするところから、何かできないかと思っています。貴重な話が聴けて大へん良かったです。

学校を良くすることから社会をよくすることができるのかも、と考えてもいます。ありがとうございました。

●不登校の問題がこんなにあるという事、初めてわかりました。本当に大変なことですね。一人一人が、その子の個性が大切にされ、生きたいように生きられる学校生活を目指したいですね。

●先生方（親、子ども）の意識が変わるきっかけの場があるといいかと思いました。

●学校のことはテーマとして継続してもらいたいです。学校への声の届け方（保護者以外でも）、行政への声の届け方、どうすれば良いのか…。上手くいっている学校、どうやって作っていったのか、私たちにできることは何か、知りたい、考えていきたいです。ありがとうございました。

●何でこんな世の中になったのかなあ。教師が上からしめつけられ、その教師たちの集合である学校が全体として生徒たちをしめつける構造になっている。その中で、“被害者”になってしまった

不登校などの子どもたちに何ができるのか。小さなことから、ひとつずつでも学校の中で人と人との関係を育んでいけるような試みをしていくことで、時間はかかっても何かが変わっていいことはないだろうか。同時に「自由に生きていく選択肢はあなたにあるよ」と子どもたちに伝えられるように、社会が風通しよく開かれていくとよいと思う。

●今回の会合、参加して良かった。

クラスの壁があるという話がありました。複数担任を利用している学校もあるそうです。

このような会があったら、案内をお願いします。

●とにかく味方がいることが、子どもにとって最後のとりでになるのではないかと思います。子どもに聞くことを一番にする。今の学校ががんにがらめになっているのはお話を聞いておそろしいほどですが、そんな中でもなんとか子どもの側に立って、物事にあたっていきたいと思いました。

●市民のプラットホームは初めて参加させていただいたので、意見を話す前にお名前と地区くらい、すべての方に言ってほしかったです。答えは出ませんでした。いろいろな方のお話が聞けてよかったです。

●悩みを持っている人の気持ちがとても良く分かり、何とか解決できないものかと考えさせられた。

学校を変えるためには、学校に関心を持ち、先生方との関係作りを心がけ、保護者会、授業参観などには出席し、子どもたちの思いや親の思いなど、積極的に話していくことが大切だと思う。

●孫が今春小学校入学なので、大へん参考になりました。

●とにかく色々な人の話を聞きたいので、来てよかったです。それぞれの人の経験もすぐに話せるのではなく、時間をかけて話す中で、大事なことが出てくるのだと思った。なので、もっと人の話をよく聞こうと思いました。自分にとって良い気付きの場を作って下さり、ありがとうございます。

次回「プラットホーム」のお知らせ

テーマ 「多文化共生」

日程 後日お知らせ

最近、あきる野市でも外国の方をよく見かけるようになりました。市内でどのくらいの外国人が住んでいるのか、また共生していくにはどうしたらいいのか、など市の担当課の方にお話を伺いながら、みんなで考えてみたいと思います。ご参加ください。

●他の人の話も聞けて良かったです。今後の活動の参考にします。

●普段思っても言えなかった事を、この場で言え、みなさんと共有できて良かった。まだまだ沢山意見を出し合って、これから共に考えを深めていく段階だと思うので、自分の周囲の意見を聞いて、次回持ち寄りたいと思いました。

●中学校に対してどう関わっていけばいいのだろうか、よりよくするため、どう動いていいのか、わからない。

不登校の保護者が悩みを話せる場を作りたい。

●子ども主体の学校生活が一番大事であるはずなのに、学校の体制がトップダウンの窮屈な中では、自分たち（教員側）や学校を守るための行動に出てしまうことに非常に残念な気持ちになりました。親が役員になって学校に入れば、色々なモノが見えてきたり関係性もよくなると思います。現代は共働き家庭が多くあったり、自分の事が大変！！と思っている保護者の中には、役員＝バツゲームであるかのように、学年が下の内にサッサと形だけ済ませられればラッキー！！と考えるような人が多いことも事実です。私自身は次男が小学校6年生の内に、本部（PTA）、会計監査も含めると5年間、役員をされていて、かなり問題のある（現代では）子を持っていても、先生方と濃いつながりが出来、大へん楽しく（親子共々）過ごすことが出来ました。（了）